

経年排出量の算定・開示に係る課題と支援策

□ 経年排出量の算定・開示に係る課題

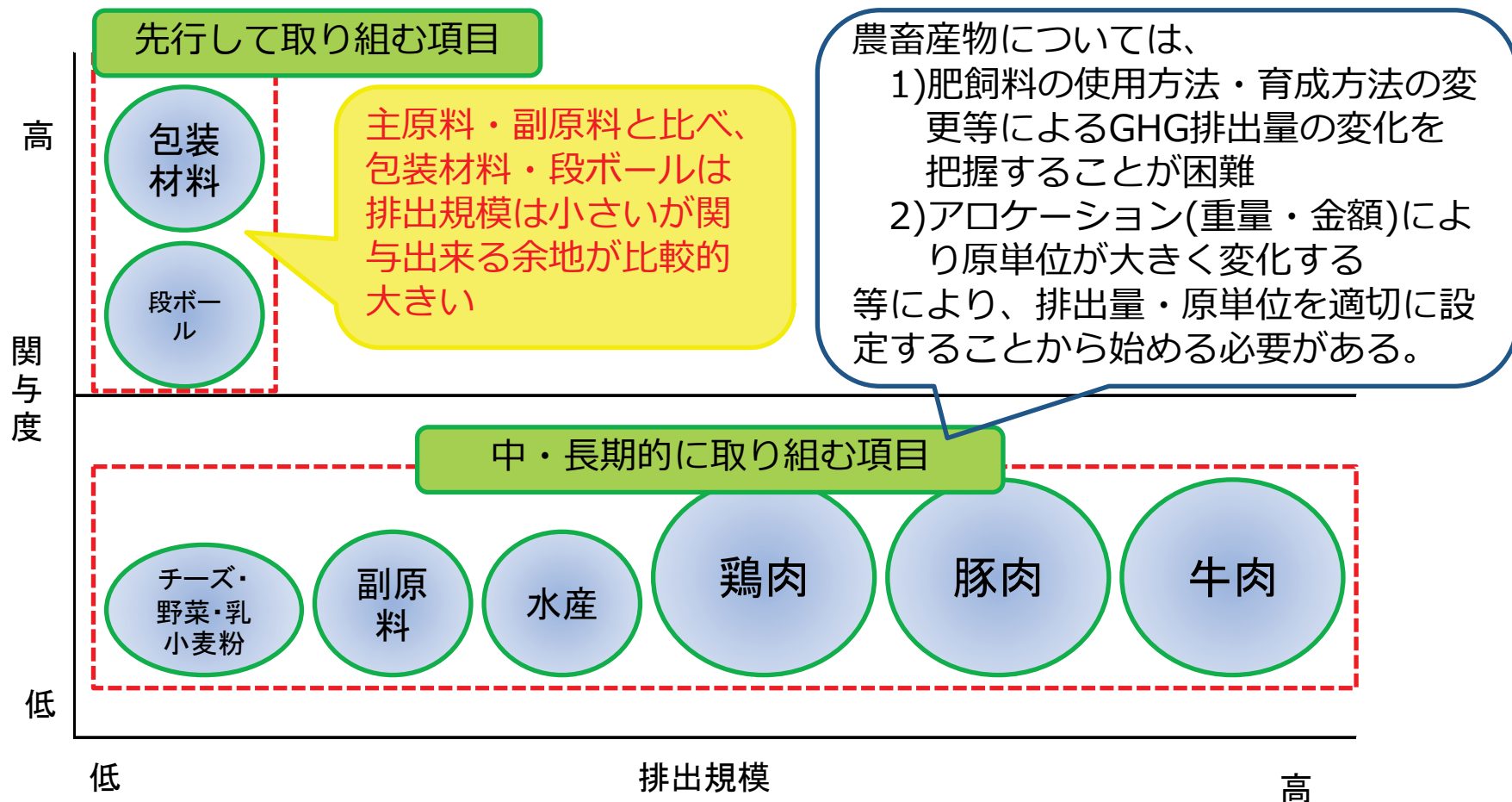
スコープ3排出量の9割弱がカテゴリー1で占めており、そのカテゴリー1の中でも当社(日本ハム)自身ではマネジメントが困難な原材料(食肉・水産・チーズ・野菜・乳・副原料など)からのGHG排出量が約98%を占める。
経年評価で削減努力を評価することができない。

□ 課題に対する支援策

スコープ3のカテゴリー1排出量を「関与度（当社がマネジメント出来る可能性）」と「排出規模」で整理し、関与出来る余地が比較的大きい排出活動（包装に係るGHG排出量）の経年評価を実施する。

経年排出量の算定・開示に係る課題 に対する 支援策実践結果①

「購入した製品・サービス」の活動項目をGHG排出規模と管理のしやすさの観点から分析しました。



経年排出量の算定・開示に係る課題 に対する 支援策実践結果②

「購入した製品・サービス」の活動項目の中から、容器包装に注目し、軽量化によりどの程度の削減につながるか算定。

1)包装フィルムの薄肉化
- もう切ってますよ！焼豚 -

2)トレイの軽量化
- 中華名菜 -



住友ベークライト株式会社様との協働により底材のフィルムの薄肉化を実施。



トレイの薄肉化を継続して進め、軽量化を実施。

経年排出量の算定・開示に係る課題 に対する 支援策実践結果③

容器包装の軽量化により、スコープ3の他のカテゴリーへの影響度を確認しました。

カテゴリ	影響度	効果
カテゴリ1	あり	資源投入量が減ることにより削減効果が見込まれる
カテゴリ2	なし	資本財への影響なし
カテゴリ3	なし	自社設備でのエネルギー使用量へ影響なし
カテゴリ4	あり	輸送・配送重量が減ることにより削減効果が見込まれる
カテゴリ5	なし	自社から排出される廃棄物には影響なし(※)
カテゴリ6	なし	出張には影響なし
カテゴリ7	なし	通勤には影響なし
カテゴリ8	なし	リース資産には影響なし
カテゴリ9	あり	輸送・配送重量が減ることにより削減効果が見込まれる
カテゴリ10	なし	製品の加工には影響なし
カテゴリ11	なし	製品の使用には影響なし
カテゴリ12	あり	焼却場までの輸送重量と焼却重量が減ることにより削減効果が見込まれる

※厳密には、容器包装の軽量化により、包装工程の廃棄物発生量低減が見込まれますが、容器包装のロス率が極小であるため、カテゴリ5への影響度を「なし」としました。

経年排出量の算定・開示に係る課題 に対する 支援策実践結果④

焼豚は2013年度、中華名菜は2007年度を基準年度(各商品の包装材料・トレイ変更前の年度)として

- ①基準年度の販売パック数と基準年度の包装材料・トレイ重量からのGHG排出量
- ②2014年度の販売パック数と基準年度の包装材料・トレイ重量からのGHG排出量
- ③2014年度の販売パック数と2014年度の包装材料・トレイ重量からのGHG排出量

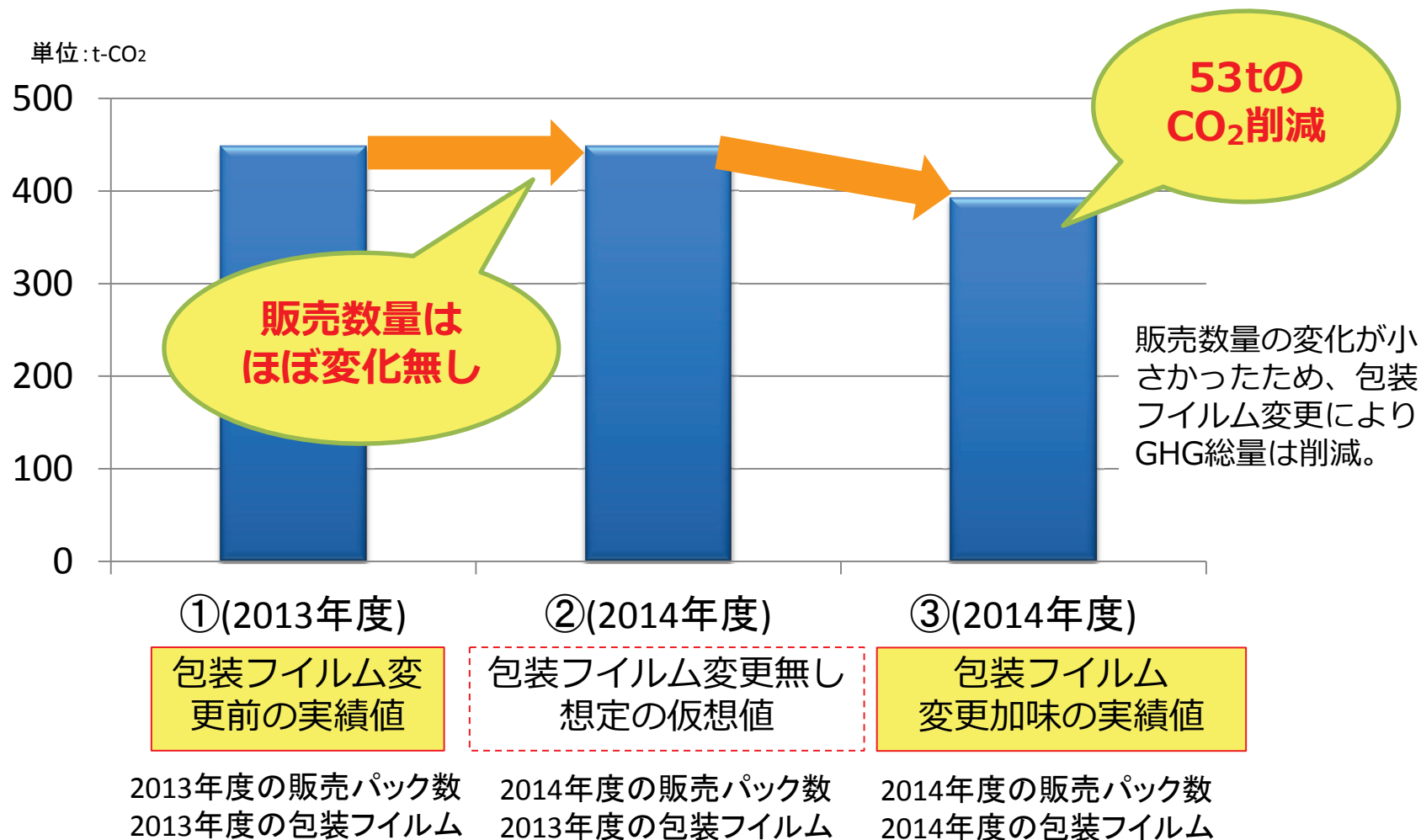
から経年の排出量で比較しました。

資源投入量、輸配送重量、廃棄重量の減少によりGHG排出量削減効果が見込まれる4カテゴリーを算定すると、2014年度の削減結果(上記②と③の比較)は・・・

4カテゴリー合計で1,550t-CO₂の削減
(内訳 焼豚 53t-CO₂、中華名菜 1,497t-CO₂)

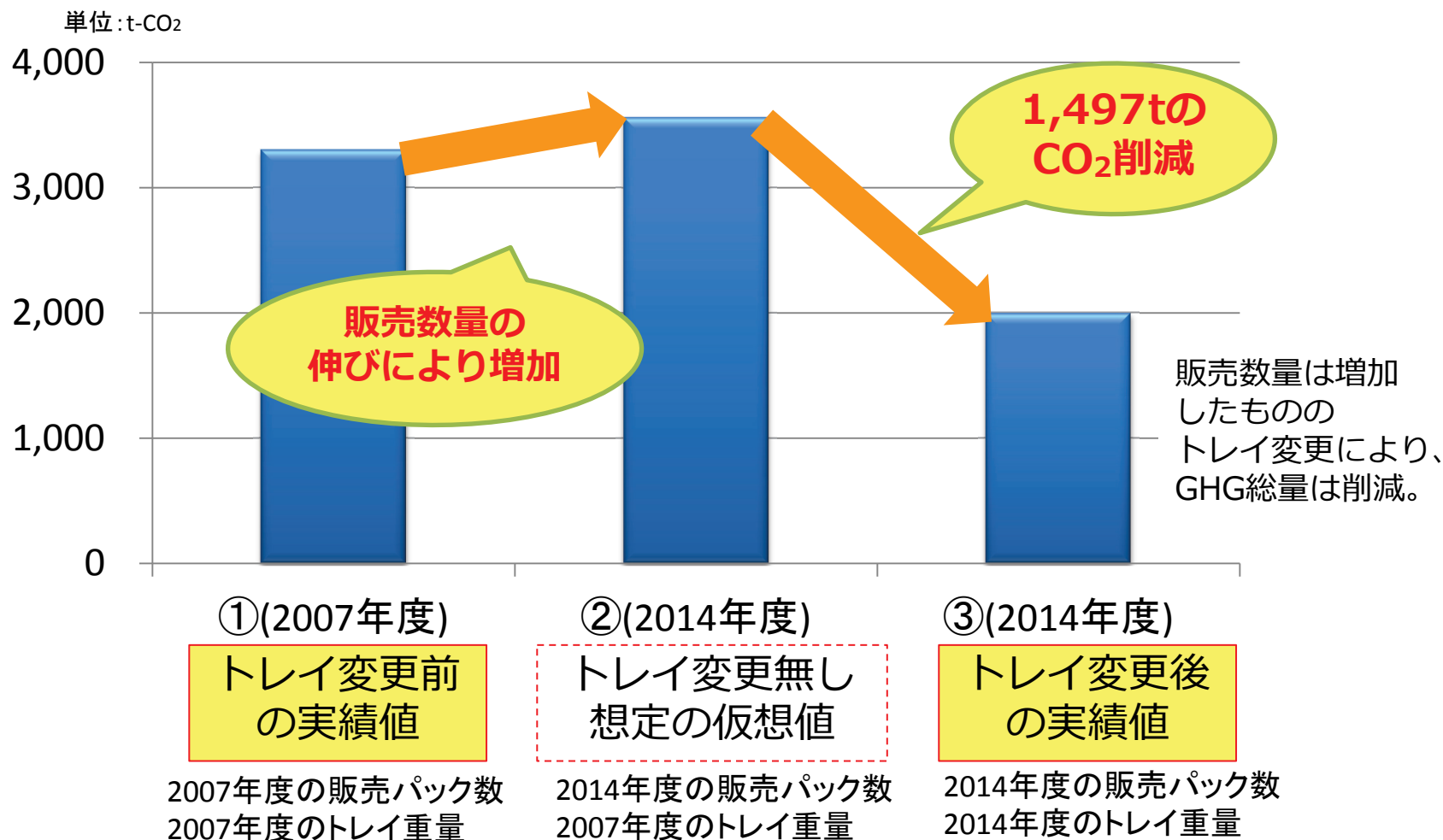
経年排出量の算定・開示に係る課題 に対する 支援策実践結果⑤

焼豚包装フィルムのGHG排出量(4カテゴリ合計)推移



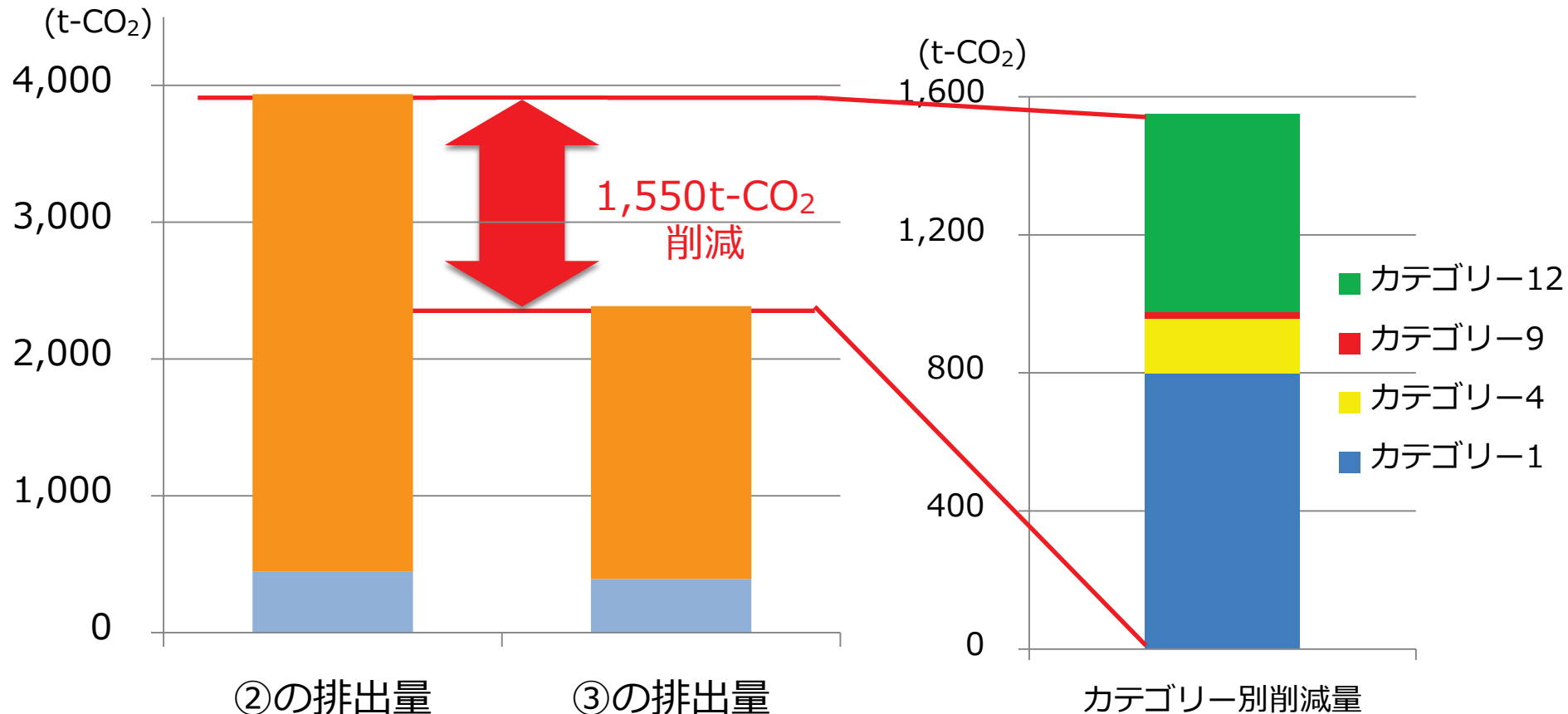
経年排出量の算定・開示に係る課題 に対する 支援策実践結果⑥

中華名菜トレイのGHG排出量(4カテゴリ合計)推移



経年排出量の算定・開示に係る課題 に対する 支援策実践結果⑦

焼豚・中華名菜のGHG排出量比較および削減量の内訳



支援策実践結果 全体を通じて

- 持続可能な社会の構築に向けて今後の課題
 - 自社の排出量を削減することはもちろんのこと、サプライチェーン全体を考え行動することが求められる。
 - 1社単位では小さな削減であっても、多くのステークホルダーが関わることにより、大きな削減効果をもたらすことを念頭に、協働の取り組みを進める。